

昭和19年4月1日（土）

切手請求料金上がり、葉書は一銭加販のこととなり、書状は七銭となる。二銭切手五千枚に対し、五百枚交付あり。みわさん不足分受取りに行かれ、五銭切手持来らる。更に電話し先方より交換に来る。新参女子のみにて、行違い多しと認む。坊や再び所在不明、尋ね廻る。汽車道に居ると。

昭和19年4月2日（日）

一銭切手皆無、他のものと共に請求す。午前四時頃より降雨、時に霽れる。受取りにみわさん行かれ、中さんより請求少し待たせ中津局に至れば、十分前切手交換せりと。急ぎ販れば既に居らる。雨漸く甚だし。里芋の皮剥きたり。道子より水飴小包にて送付越せり。穴瀬さんより切手を持行き、夏カン一頂き来る。これも余に持来る。坊、酸の物好まぬらし。

昭和19年4月3日（月）

前田さん窓口の筈。神武天皇祭。晴天。報告物作成に当たる。忙わしく暮らす。

昭和19年4月4日（火）

切手請求にみわさん払込み。午前十一時半まで待ち、現品受取。還らんとしたるも待合い時間が惜しく一旦還りしとて、十一時半に余行く様、慇懃さる。余坊を連れ行く。一時間待つ。かくて受取り、局員諸氏の好意にて、抱かれて日向ぼっこし居る坊を連れ還る。天満宮様境内に入り「御出で御出で」も容易に還らうとせず。余サヨナラして、隣家の西野産婆前にかがみ居る。後を慕ふ様子見え

ず。余呆れて遂に坊やの手を携え帰る。かくて四時前、坊やエプロンを自ら取外し、玄関の扉を開き外出。余後を追ひしも居らず。みわさんに出て見て来たれと再通告するも、四時迄に為替に払込む積立金の報告物を済ませたる上、出て行かる。此の飯焚き汁を煮る夕方迫るも、坊見えず。余も亦、心当たり捜す。皆目判明せず。之を班長さんに咄す。班長さん飯を口にし出て行かる。会長さんを訪ねて諸動員の態勢を揃えらる。竹屋を捜査本部として多数集合。がら半俵二時間にして殆ど全部使用し盡さる。手分けして捜したるも発見に至らず。今夜は格別寒し、中には当てもなく捜査しても判明することなしとて、寺町の鉄刀屋の隣の弘法大師に見て貰ふ。午後六時が生死の分岐点なりしも、六十余りの老婆に助けられて其の家に伴われ、明日八時頃警察に届出て戻り来る、六町以内火葬場附近と云ふ。再び其の辺の小川を捜査。午前二時、余神様にみわさんで行き、門前にて額つき弘法大師に行き、みわさんを待ちて帰り寝る。みわさん事務室にて転寝す。四月四日、午後四時、四才、死が続き甚だ不吉、云々と云ふ御幣担ぐも甚だしと思ひぬ。

昭和19年4月5日（水）

此の朝例に依り掃除を初め居りたるに、丸久前にて合馬さん会長さんと来たり。余に来て呉れとあり。恰もみわさん、阿部さんと約束せしことあり。御大師さんを祀る老婆の判断が総て正しいとて、其れに案内さるることとなり居りなかなか還らず。話を聞くに、昨夜上の原駅にて、四つ位の女児が紋平を穿き迷児となり大変な騒ぎでした。合馬さん聴きて、的切り尋ぬる坊やに相違なしと、会長さんを訪ねて一緒に来られ、班長さん宅に行かれたるら

し。みわさん迎えに行かる16。米を?持遣る。班長さん
為藤さん糸永さん同行、八時汽車にて行かる。聞く処に
依れば、前夜乞食風の老人が、十才ぐらいの女兒を連
れて上の原に下車したる親子連れらし一行と同伴、靴を
穿きて居たるを脱ぎて腰掛けに上がり其の女兒と戯れつ
つあり。隣りに上の原駐在所巡查、上の原駅長家族等乗
り居たるも、何れも坊やを乞食の一行と認め居れりと。
上の原にて坊や乗っておらん。原口の方に行く村長さん
の後を追って約一里は原口村に行き、往きつ戻りつして
居る様子を、仕立屋広池某氏、之を認めて連れ込み舐
（く）はりつつ上の原駅前に差置く。六時頃鮮人が自分
の子にすると之を負ふ。坊嫌々と駄々をこね、果ては髪
の毛を繰りて手に負えぬと放置するに至る。駅前島津義
雄氏妻女、之を抱き自宅に入れて世話す。此の間二時
間位泣き続けらるらん。島津氏妻女に負われて安心して
眠りしと云ふ。靴は下車の際、足袋蹠蹴（はだし）の俣
なるより見れば、乞食が携えて行きしらし。島津氏に五
円、広池氏に三円を御礼す。正午近く一行帰来。此の夜
金二十円を包み会長さんを訪ね、寄附行為に付き懇談す。
次いで戸別に挨拶廻りす。最後班長さんに寄附問題持出
す。善処を約し販る、九時頃なりし。前晩は寒く七輪二
ヶ、竹屋に持行きタドンを出したるが、此日は暖かにて
羽織下として道子の調製毛糸を脱ぐ。切手請求一錢二万、
二錢一万、前者及び後者を各二十円と誤算し二百円不足
す。受取方もみわさん待居り持帰らる。一万九千、及び
九千追加請求書調製。十時過ぎ持行かる。

昭和19年4月6日（木）

切手請求の件前後す。昨班長さん一行に対し、昼飯を饗

応す。森田ケン等調理、此の時の森田さん方のやり方に批難を浴びせ、戸棚を明けて砂糖を全部消費せしとか、里芋の大きなもののみ選り、大半使用したるとか云々。

昭和19年4月7日（金）

降雨あり、概して曇り。常会丸久さん、アラレ沢山出る。坊や食し且つ貰ひ来る。

昭和19年4月8日（土）

消火器等の点検。水槽に水を湛え、火たたきの外、竹棹一本出すこと。砂糖十ヶ紙製、丸久さんは乾かしてある。鶏糞を詰めたる当意即妙？砂箱破壊、新しきに換えたり。十一時頃より点検ありしも余の家には不来。電燈遮蔽して85づつにて求め来らる。夜来降雨、朝霽れる。坊やの誕生日。午後五時より神様に行き、本朝小豆飯の炊き方を委頼し置きたる（小豆は神様寄贈）。出来上がり櫃（ひつ）を嬢さん持来らる。班長さん、助役さん、宣津のちよ子ちゃんの家配らる。森田さんにも贈らる。湯煖房なしに寝る。

昭和19年4月9日（日）

前田さん、荒巻さん朝湯沸かし下さる。此の日森田さん十一時まで長夜の眠りを続く。一時より荒巻、前田さんと貝拾い。神様でも行かるる筈。午後、島津義雄氏方に広渡時子氏来たり。坊やを抱き上の原に連れて行かる。午後四時タンク1、95、厚紙で出来た丸型の玩具五六枚、絵本一、菓子一持参。招じて巻柿二ヶ遣る。此の日式拾円、人騒がせ料金、名称を異にして班長さんに遣る。班長さんより町内会長に送付せしものと想像せらる。

昭和19年4月10日（月）

花見を薦むるも余不行。切手請求制限以内にて間に合わす。受取に一時頃行きしも大分待たさる。坊連れる。葉書六千あり。

昭和19年4月11日（火）

夕方近く、無理に連れられて公園の花見に出掛く。之れより光坊理髪、丸坊主となる。音楽会あり。みわさんの亡父の命日。白飯に里芋、人参、ホーレン草、おひたしをも作らる。御経上げる。

昭和19年4月12日（水）

上原元村長（島津氏の隣家）の奥さん来らる。此の朝巖来たり。御掃除して一旦帰り九時頃再来。便覧訂正をやらす。午後五時頃切り上ぐ。昼飯やる。巖、浅蜷一升程持来る。坊夕方所在不明となる。森田、荒巻両氏、駅の方にみわさんも索す。余、不図溝を越えて廂の下に居るを発見、肝を冷やせり。其の少し前、巖まで繰出し自動車庫に遊び居るを連れ戻る。切手請求払込に余行き、現品の請取りにはみわさん行かる。序でに年金千余円受取り来らる。金光教会の先生、御本部に出立。栄町局長臨局。奨学資四円出稿？。

昭和19年4月13日（木）

巖来る。ラジオ修理し貰ふ。八屋の人、恩給を持つ元台湾鉄道職員と云ふ人、八屋方面集金担当のことになりしと云ふ。其の人が局に来たり茶を出す。巖は昼飯食べて五時帰る。夜神様に坊御負され、餅大二つ貰ひ来たり。

坊独りで食べ終わる。みわさん横つ腹にて転倒、泥に塗る。坊幸ひに怪我せず。

昭和19年4月14日（金）

晴れ、風強し。広渡氏、飴持ち坊を訪はる。坊喜び食す。正午過ぎまで色々話して帰らる。警察に用がありしと云ふ。みわさんと一緒に魚の辻まで行き、曲がり角、古博多町で別る。七輪手に入れ来らる。夏蜜柑一ヶ八銭、十六ヶ一円二十銭。班長さんより求め来らる。明日公然売るに、行列の一員たる面倒が省かる。今日葉書六十受取り来る。京町蒲鉾屋は教会信徒中、偶々同家を訪なひ、アラレ沢山頂き来らる。此日巖の為に、里芋煮て待つ。不来。油なく胡麻味噌夕方遣る。

昭和19年4月15日（土）特記事項なし。

昭和19年4月16日（日）

森田、岩尾両氏出勤。午後より荒巻、前田両氏見えたり。三日間貝掘りに行かる。獲物僅少、海草漁りに暮ると。風強く曇り。気温降下。切手請求。印紙の請求が主たるものなりと巖来る。みわさん坊連れ、大貞公園に広渡氏に逢ふて帰らる。

昭和19年4月17日（月）

ラジオ真空管購入方申出でたる者あり。入手絶対困難を押切り入手せし由にて、其の為、昨日は出局せざりしと申出ず（巖より）。

昭和19年4月18日（火）

小豆、徳永さんより頒与さる。一合五勺程あり。巖午後

より来局。夜巖の遣り忘れたる朝日新聞を取りに、和博、悦子寄越す。夏蜜柑一つやる。降雨、朝歇む。母堂命日、午後四時より教会にて小豆御飯を焚いて貰ふこととす。

昭和19年4月19日（水）

巖朝より来たる。区画便覧午前中にて終了。速達便覧訂正に移る。此日朝の間多少晴れ、次第に曇り。如水局長十一時頃臨局。子供8歳、小児麻痺により山田医の治療を受け、今日電気療法に通ひしありと。坊の寝小便、敷布団乾かすこと能わず。伊勢武子氏満州より帰来、夕方立寄る。更に六時頃再来、二階にて森田氏と話す。坊や朝容易に起床せず。午後四時頃負われて眠り、夜十一時頃まで起きて居る。

昭和19年4月20日（木）

逋信記念日。午前中快晴。石橋学氏書記官となる。靖国神社臨時大祭仰出さる。遺族部隊鹿児島隊、昨日東京到着。巖不来。十一時頃より飯炊きて、副食物に里芋を添え待つ。午後四時頃、ハマグリを沢山持来たり。十分間計り話して帰る。みわさん坊連れ、午後より小倉教会かかり出発。午前中晴れ、後曇り。五時過ぎ還らる。小倉教会にて、坊騒ぎ廻って皆に迷惑をかける為、中途より帰り来ると謂わる。

昭和19年4月21日（金）

中氏より印紙高額百五十円請求あり。九時を過ぎ十分、余持行き払込む。受取には午後よりみわさん行かる。

教会の坊ちゃん???戸籍調べ、左記の通り。

中津市島田85、戸主西村一（15-8-19）長女幸子（大

正6-1-25) 二女喜世子 (8-2-4) 二男豊 (11-12-4) 三男清重 (14-1-13) 四男清人 (昭和3-6-7) 四女静子 (5-9-23) 妻いよの (明治33-8-17)

中学を終え神官学校を卒業、兵隊に行く間を神鋼に採用方、みわさん頼まれ、管さんに頼みに行かる。

流しの栈、みわさん乾さる。湯に行き帰りに坊や独りで神様に、更に独りで帰宅。折角神様より貰ひ来たりし夏カン、家の近所の溝に棄つ。之を追求し棄てたる場所を指摘せり。夏カン坊好物二つ食す。人参飴、過日教会の信者さんより貰ひしもの。蓋開くれば一向甘味なし。巖不来、晴天。昨夜寝小便し敷き布団乾かす中、売捌き人より印紙請求。十一時頃までに現金持参方促す、不来。遂に明日に延ばす。

昭和19年4月22日 (土)

巖来たり、大問題惹起と云ふ。炊事部屋に余を辣致す。ラジオ集金一ヶ年分??となりし結果、手数半減、仕事も半歳は余裕あり。此の儘では、集金計りか世渡りが出来なくなつたと云ふ。此日より、イロハ便覧の訂正に移る。其の前、公局扱いの編綴を頼む。整理の跡を見るに、可なり相前後したるもあり、甚だ芳ばしからず。巖五時帰宅。

昭和19年4月23日 (日)

前田さん荒巻さん、正午まで靖国神社臨時大祭。巖十時頃より来たり。山に蕨採りに誘ふ。弁当持来すと云ふ。耶馬溪線、耶馬溪駅下車、之を断る。此日掃除の際、塵埃 (ちりほこり) 街路に溢れ出、風に吹かれて四方に散乱する有態に、藁たけを持運び之を焼き、其の為座敷

の掃除未だし。山に行くなど予想もして居らぬ故、此の次回にと巖に断る。午後よりみわさん、秀樹と智子の下駄、和博悦子に進級祝いに筆入れを持来さる。岩尾さん来たり。森田さん丸久の細君と総勢、貝拾いに行かる。一時頃より出発、余誰も居らぬ間に、里芋の皮を剥く。三時までかかる。絹貝、森田さんより頂く。

昭和19年4月24日（月）

霽るるかと思ひの外、午後より降雨。風猛し。従って降雨量尠なし。切手請求、五円多くやる。先方より電話あり、計算するに果たして其の通り。切手受取り、坊連れ行く。往復共駆け通し、克く歩くに感心せり。請求の国債到着、代金払込みを了す。昨夜の寝小便の敷布団、乾くに至らず。夏カン20ヶ計り求め来らる。気温降下、行火す。靖国神社臨時大祭二日目、巖不来。夜に入るも風歇まず。荒巻さんより、昨捕りし貝の一部を貰ふ。

昭和19年4月25日（火）

朝八時、靖国神社臨時大祭、諸官員は休暇を賜ふ旨、仰出さりしとの電報あり。荒巻前田両氏臨局、引返す。貝拾いに行きたる如し。前日沢山採れしに味を占めたる如し。此日朝晴れ、次第に曇り降雨。巖巖持来、引返す。カード到着、直に集金に著手せし由。午前中八重子、細川病院に嫂の入院を見舞いに行き、みわさんも行かる。次いで神様に、四時を過ぐ。蕨煮て待つ。蒲団乾したるも時々細雨に妨げられ、二回も出したり入れたりす。寒し。森田さん等、前日程多数獲物なかりしも、夕方まで掘り来らる。唐津の常安亮氏、二十二日午後零時25分死去に仍（よ）り、午後二時、長得寺に葬る旨通知あり。

香奠五円、小為替にて発送することに決定。

昭和19年4月26日（水）

快晴。練炭、午後二時過ぎおこし、夜遅くまで湯沸く。今朝釜一杯、御蔭で腰湯に全部頂く。巖、朝六時、味噌五百匁程持来。既に朝飯を済まし居るに驚く。今日は五時十分より朝食。みわさん神様より昨日大祭の御供物、御膳ごと持来さる。余一物も頂かず。切手請求及び受取にもみわさん行かる。影浦の小母さん、坊を連れ行き赤飯土産に持来る。伊勢さんの母堂、神様に参詣。昨日も見えたりと。息子の武運長久を記念する為なるべし。武子氏今日も見ゆ。今朝巖は余の仕事の補助を目的としたるに非らず、直に帰宅せり。みわさん夕食後、醤油を巖方に持行かる。帰宅十時過ぎとなる。

昭和19年4月27日（木）

午後より細雨。中氏より印紙請求、二百円時間外なるも出して貰ふ。みわさん行かる、容易に帰らず中氏来たり待つ。余迎えに行く。積立貯金取集を序でにやり、各方面を廻り、自然遅くなれる由。坊も鶏舎の前にて動かず、漸く連れ来ると。坊、東京より送り越せし上等の靴紙在不明に帰せしむ。故母堂の母の命日、白飯炊いて夕方供膳す。里芋煮る。

昭和19年4月28日（金）

巖、午後來局。明日蕨採りに誘ふ。少時咄して帰る。快晴、珍しき暖かさ。給料交付。前田氏八幡へ、荒巻氏耶馬溪方面の親戚に行くらし。両氏共、明日明後日連休。今朝街路掃除せず。雨の為溢水（いっすい）、廂（ひさ

し) 下に溜まりてあるを水刷けで力む。朝飯五時は早い
とみわさん云ふ。六時半に改む。今朝は粥食。余は昨夕
残りの雑炊を頂き、粥も亦頂く。午後九時半頃寢床。

昭和19年4月29日 (土)

道(さすが)に天長の佳辰らしき快晴。上村氏に召集令
状今朝着、広島入営らし。町会長さんの向いの履物屋主
人公死去。会長さんより葉書千枚の注文、六百枚遣る。
午後五時前、里芋にて夕食を済まし告別式に行かる。次
いで湯に行かる。鉄道便にて森田さんに里芋到来。阿部
さんの咄にて、土を一尺掘り人糞を入れ、乾燥を俟って
南瓜の種子を蒔けば、後手入れを不要とす。杓子教会よ
り借り、下肥を入れらる。福岡へ葉書出す。昨日より暖
房を廃す。巖、蕨狩りを勧むるも遂に行かず。

昭和19年4月30日 (日)

快晴。此日、班長さん子息結婚披露式。嫁は耶馬溪俱
楽部の女給と云ふ。数年前より同居の姿に在りしと云ふ。
上村氏店頭祝い、入営の旗幟(きはん)樹つ。局出勤。
岩尾、森田両氏正午帰宅さる。夕食後、みわさん森田さ
んと湯に行かる。午後七時半頃より瀬口氏宅に行かる。
坊も一緒に行きたがる。余負うて駅に帰来、眠る。駅前
広場は防空壕にて一杯なり。みわさん十一時近く帰らる。
開会九時近くになりたるらし。夕方巖来たり。餅一ヶ、坊
に遣る。蕨採り中止。八重子、子供連れ里行きに変更し
たる由。巖の計画は下郷の我兄と実家に行き、蕨狩りす
る約束、成立しありし如し。